



# GPIFの広報方針

年金積立金管理運用独立行政法人

2019年10月28日



# GPIF広報の目的

- ① 年金積立金の運用と、年金積立金を運用するGPIFについて、GPIFのステークホルダー（中でも公的年金の被保険者である国民の皆様）の理解を深め、年金積立金の運用やGPIFに対する信頼向上に寄与する
- ② 公的年金制度における積立金の役割について、国民の皆様の理解を深め、公的年金制度自体に対する信頼向上に寄与する
- ③ 適切な広報活動を通じて①②を実現し、年金事業の運営の安定に貢献することを使命とするGPIFの円滑な経営に寄与する

# 年金積立金やGPIFに対する見方

GPIFは2016年から保有全銘柄の個別開示を始め、理事長自ら年2回の会見を開くなど透明性の向上に努めてきたが、国民の皆様からは以下のようなご意見を多く頂戴する

- GPIFによる年金積立金運用が好調なら、なぜ自分の年金受給額は増えないのか
- GPIFは運用でいつも損している素人集団
- 国民の虎の子の年金資産をギャンブルに投じている

さらに、「世界最大級の年金基金」「運用資産150兆円」「クジラ」のイメージが独り歩き

## GPIF広報が伝えきれていない「3つのメッセージ」

### 1 公的年金制度／年金財政における年金積立金の役割

年金積立金は将来の現役世代の負担をやわらげるために存在する

### 2 長期国際分散投資の効用

年金財政上必要な利回りを最低限のリスクで確保するため、長期分散投資を通じて効率的に世界中の経済活動に資金を提供する見返りを得る

### 3 ESG投資の意義

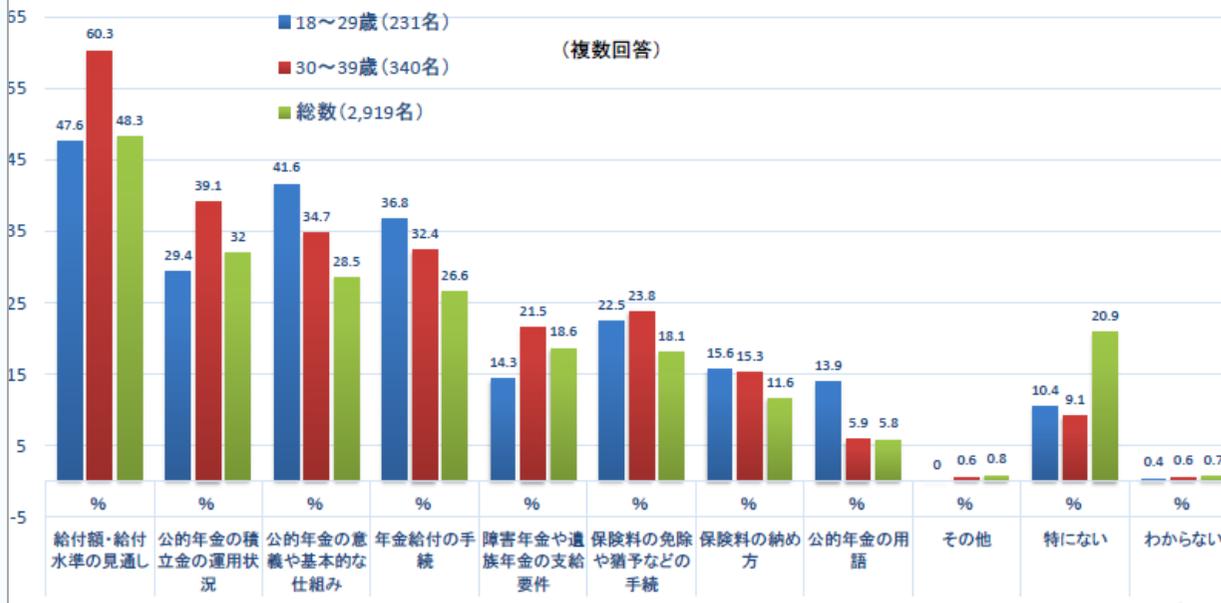
ESGを考慮した投資は金融市場の持続可能性向上に寄与。「ユニバーサル・オーナー」かつ「超長期投資家」としての特性を持つGPIFと親和性が高い

# 世論調査から伺える「3つのメッセージ」訴求の必要性

内閣府が2018年11月に実施した公的年金に関する世論調査では、「公的年金制度に関して知りたいこと」の順位が、①給付額・給付水準の見通し、②**公的年金の積立金の運用状況**、③公的年金の意義や基本的な仕組み—という結果に

## Ⅲ-1 公的年金制度に関して知りたいこと

公的年金制度に関して、よく知りたいと思うことは何か聞いたところ、「給付額・給付水準の見通し」を挙げた者の割合が48.3%と最も高く、以下、「公的年金の積立金の運用状況」(32.0%)、「公的年金の意義や基本的な仕組み」(28.5%)、「年金給付の手続」(26.6%)などの順となっている。なお、「特になし」と答えた者の割合が20.9%となっている。(複数回答、上位4項目)



出所 厚生労働省「第1回年金広報検討会 資料2」

### 年金積立金運用への関心が高い背景

- 「自分が年金をいくら受け取れるかは、積立金の運用結果に大きく左右されると考えているから？」
- 4半期ごとの運用損が大きくなったときにメディア露出が増えるから？

### 「3つのメッセージ」がやはり重要

- 年金制度における積立金の役割
- 長期国際分散投資の効用
- ESG投資の意義

# 2018年度の取組み

## ① 公式HPの全面リニューアル

- **CMS機能**を導入したことで、**迅速かつ柔軟な文章の修正や資料掲載**が可能に
- 「顔」となるトップページで使用する写真やメッセージは、17年度に作成した紹介ビデオのテーマ「For All Generations」を踏襲。累積収益のグラフと組み合わせ、数世代にわたる長期投資家としてのイメージを訴求
- 年金制度における積立金の役割や、長期分散投資の効果を図表等を使ってわかりやすく解説
- 海外メディアや海外取引先の利便性向上のため、**英語HPでも業務方針の翻訳版などコンテンツを拡充**

### リニューアル後の公式ホームページ



# 2018年度の取組み

## ② パンフレット「GPIFって、なに？」制作



100ページを超える業務概況書は専門性が高く網羅的。投資に興味が無い方にはわかりづらい面も

2018年度に新たに発行したESG活動報告は、主な読者として投資先企業を意識した作り。一般の方が理解しやすいとはいえない

年金制度における積立金の役割や長期分散投資の効用に焦点を当てて、**初心者向けにわかりやすく解説**した8ページのパンフレット「GPIFって、なに？」を制作



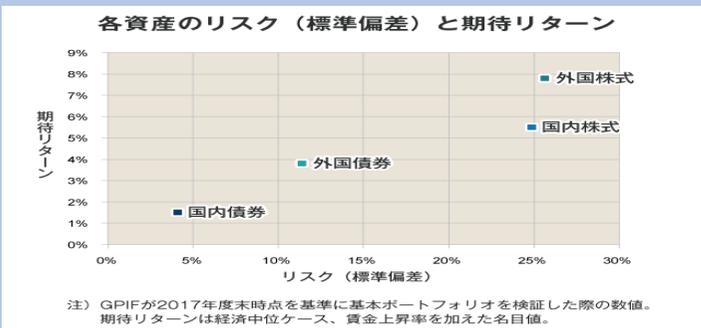
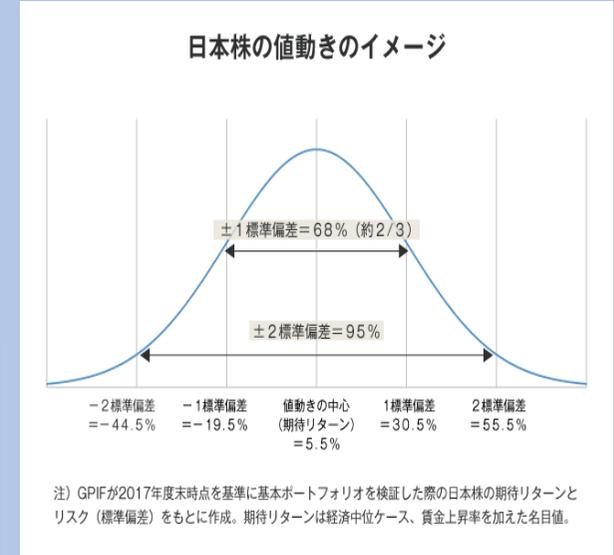
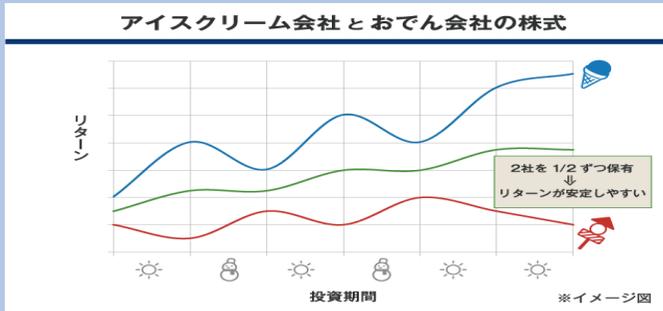
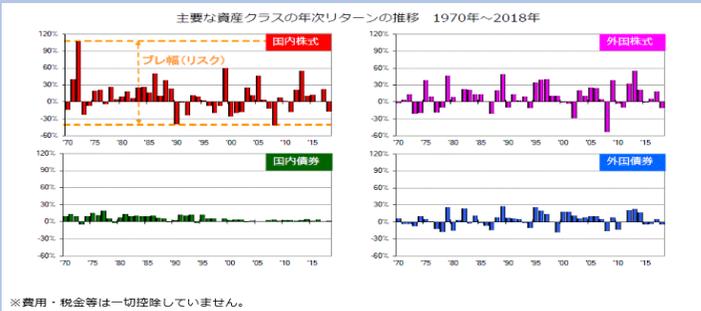
HPのトップページに掲載。紙芝居のような動画化も検討

# 2018年度の取組み

## ③ 長期分散投資の効用を解説するHPコンテンツの充実

- 投資情報サービス会社が提供する主要4資産の時系列データや身近な例を活用し、**長期分散投資について国民の皆様へわかりやすく訴求**
- GPIFが基本PFの策定・検証に際して使用する期待リターンや相関係数のデータは業務概況書にも掲載されているが、これらのデータを新たにグラフ等で視覚化して示すことで、金融・投資の初心者にもGPIFの運用を具体的にイメージしていただけるよう心掛けた

### 長期分散投資の効果



主要4資産と分散投資した場合のリターンの推移 2003-2018

	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
第1位	国内株式 25%	国内株式 11%	国内株式 45%	外国株式 24%	外国債券 5%	国内株式 3%	国内債券 38%	国内債券 2%	国内債券 2%	外国株式 32%	外国株式 55%	外国株式 21%	国内株式 12%	国内株式 5%	国内株式 22%	国内債券 1%	?
第2位	外国株式 21%	外国株式 10%	外国株式 25%	外国株式 10%	外国株式 4%	外国債券 -15%	4資産分散 13%	国内株式 1%	国内株式 0%	国内株式 21%	国内株式 54%	国内株式 16%	4資産分散 2%	国内債券 3%	外国株式 19%	外国債券 -4%	?
第3位	4資産分散 13%	4資産分散 8%	4資産分散 19%	4資産分散 9%	4資産分散 3%	国内債券 -29%	国内株式 8%	国内株式 -2%	国内株式 -6%	外国債券 20%	4資産分散 32%	4資産分散 13%	4資産分散 1%	4資産分散 2%	4資産分散 11%	4資産分散 -7%	?
第4位	外国債券 6%	外国債券 7%	外国債券 10%	国内株式 3%	0%	-41%	7%	-3%	-9%	19%	23%	10%	-1%	0%	5%	-10%	?
第5位	国内債券 -1%	国内債券 1%	国内債券 1%	0%	-11%	-53%	1%	-13%	-17%	2%	2%	4%	-5%	-3%	0%	-16%	?

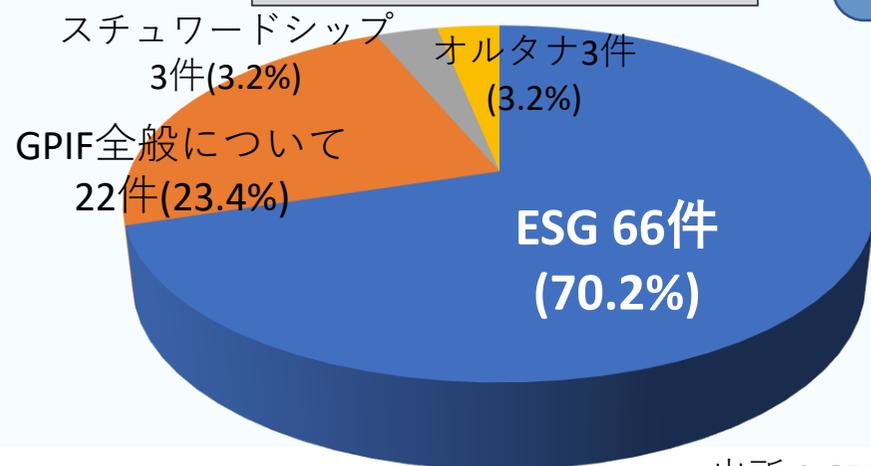
(出所) GPIF公式ホームページ

# 2018年度の取組み

## ④ 環境株式指数などESG活動の理解促進

- ESG投資は長期投資家としてのGPIFが資本市場から享受する投資収益を安定的なものとするための一手法であり、持続的な取組みにするためには投資先企業や国民の皆様などステークホルダーの理解向上が不可欠
- ESGを中心に役職員の講演等への国内外での登壇は増加し、2018年度は94件。投資先企業などを対象にGPIFのESG投資について訴求
- 米ハーバード・ビジネス・スクール（HBS）のケースでGPIFのESG投資が取り上げられ、GPIFが取材や編集に協力。「Should a Pension Fund Try to Change the World? Inside GPIF's Embrace of ESG」とのタイトルで2019年3月出版。同大のMBAコースなどの教材に。内外の産業界・金融業界における理解促進効果に期待
- 投資戦略部が中心となって「平成29年度 ESG活動報告」を発刊、記者レクや講演等で活用

2018年度講演件数  
合計94件  
内ESG関連66件



**'GPIF is regarded as a major influence across the region.'**

(2018年10月15日 Financial Times掲載記事)

“Asia's progress on ESG is glacially slow but attitudes are changing”より抜粋)



# 2018年度の報道振り返り

## ① 「累積収益」「年金財政上必要な利回り」への言及増加

- ✓ 2019年2月1日公表の第3四半期運用実績はマイナス15兆円と過去最大の期間損失。一方で、**大手メディア（新聞・テレビ）の殆どは「累積収益」「年金財政上必要な利回り」の両方、またはいずれかについて触れていた**

## ② 「公的年金制度における積立金の役割」に関する報道等の増加

- ✓ メディア対応やHP、ツイッター等で「公的年金制度／年金財政における積立金の役割」を丁寧に説明した結果、以下のような報道等が見られた

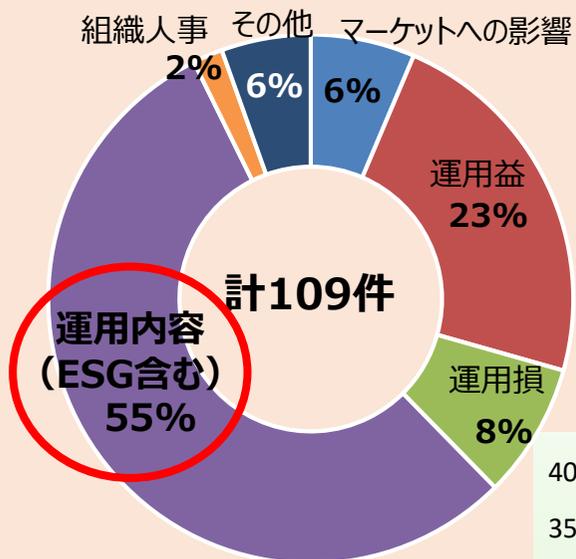
2018年7月12日	日経電子版	「GPIFが稼げば年金は増えますか？」
2018年9月15日	日経朝刊／電子版	「公的年金積立金の役割—『保険料収入 + 税金』の不足カバー」
2018年9月16日	東洋経済オンライン	「年金がどう運用されているか知っていますか」
2018年10月25日	宝印刷「ジャパニーズインベスター」	「GPIFって何だ？」
2018年12月	日本経済新聞出版社	「人生100年時代の年金戦略」

# 2018年度の報道振り返り

## ③ 「ESG投資」報道は引き続き高水準

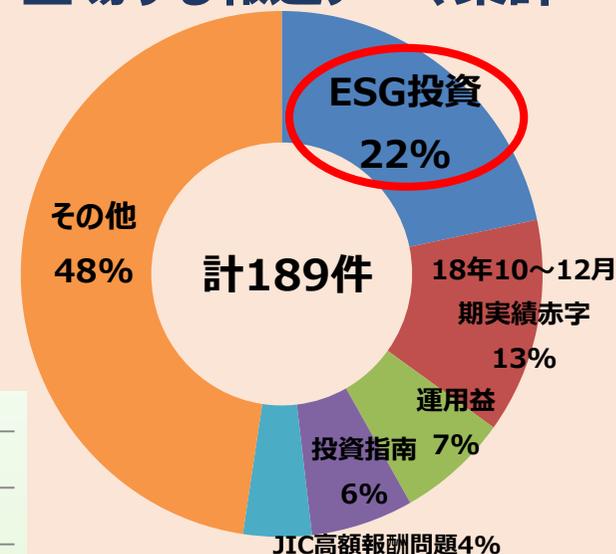
✓ GPIFに関する報道の中身をテーマ別に見ると、2017年度に引き続き、ESG投資がトップ

GPIFに関する全国紙報道件数 (2018年度※)



出所：「報道テーマ分析」  
(博報堂 2019年3月)

Yahoo! ニュース (2018年度※) における「GPIF」が登場する報道テーマ集計



出所：「報道テーマ分析」  
(博報堂 2019年3月)



ESG投資に関する新聞記事は  
継続して増加

出所：日経テレコン (朝日、毎日、読売、産経、日経の5紙対象)

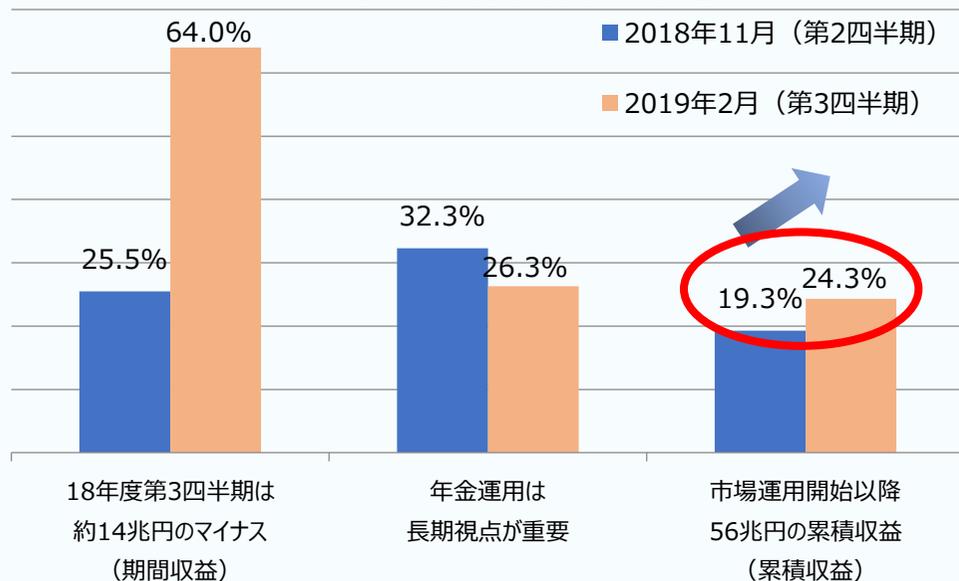
※上記はすべて前年度3月~2月までのデータを集計

# 2018年度の報道振り返り

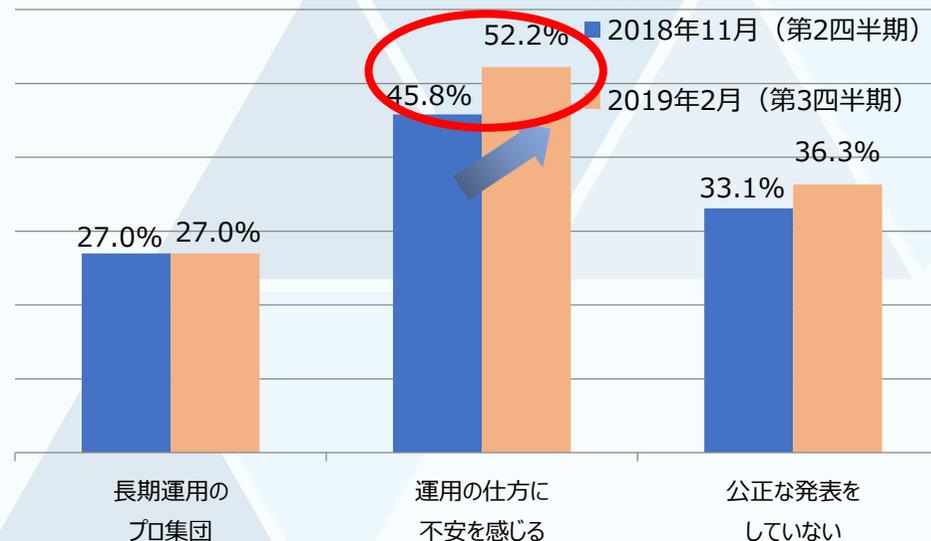
## ④ 損失報道でも「累積収益」に一定の理解

- ✓ 2019年2月1日公表の第3四半期運用実績を受けて実施した広報効果測定調査では、期間損益がマイナスにもかかわらず「累積収益」に対する認知度が上がり、「長期運用のプロ」という評価にも大きな変化なし
- ✓ もっとも「運用の仕方に不安を感じる」「公正な発表をしていない」との見方は上昇。「3つのメッセージ」の訴求をより丁寧に行う必要あり

期間損失でも累積収益の認知向上  
(運用実績公表の認知)



半数以上が「運用の仕方に不安」  
(GPIFに対する現状評価)

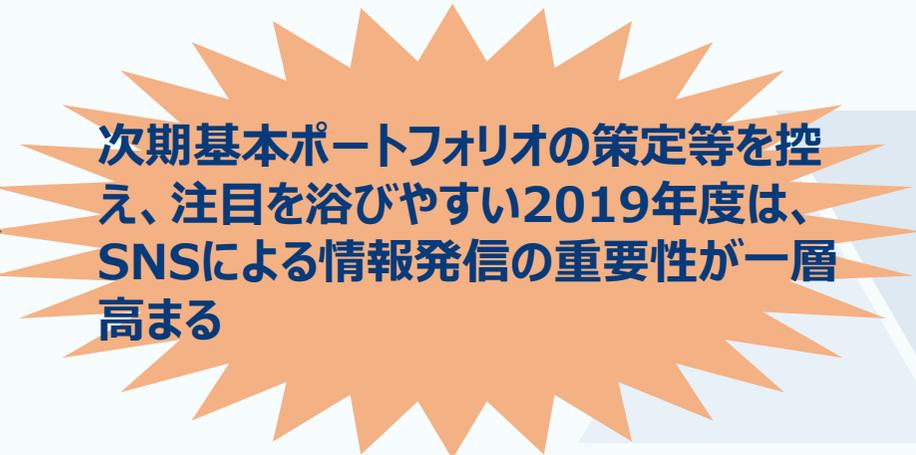
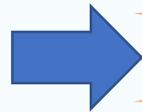
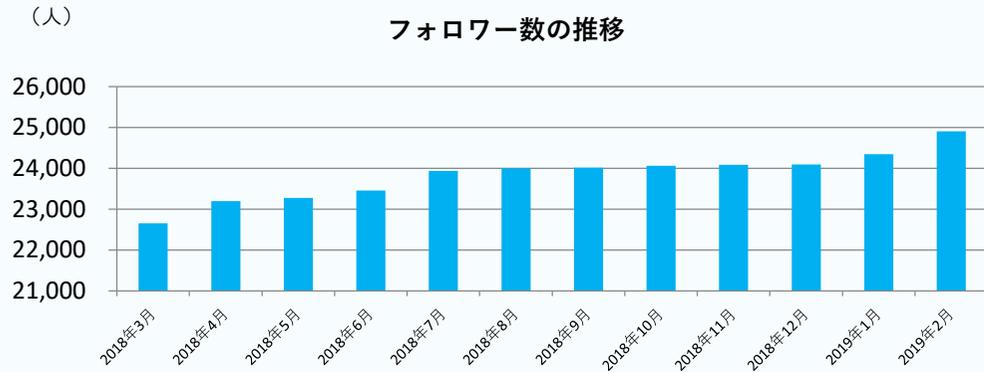


出所：「広報効果測定調査」(ネオマーケティング)

# 2018年度のSNS振り返り

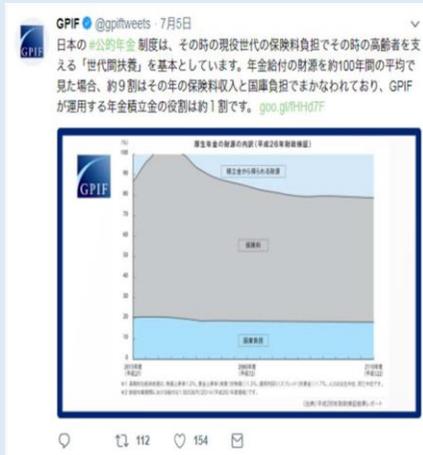
## 公式ツイッターは「3つのメッセージ」を訴求

フォロワーの伸びは「15兆円損失」報道により再度加速した



### 好反応だったツイート例

積立金の役割／長期分散投資に関する  
ツイートへの反応大きい



### 公表データや説明を積極的に発信

第三者のツイッターで誤解を与えかねない情報が拡散された場合には、公式ツイートで長期的な観点から情報発信



# 2019年度の重要イベント：次期基本PFの策定等

- 2019年度はGPIFの次期基本PFの策定を含め、年金積立金の運用利回り目標や、年金財政における積立金の役割にも注目が集まる
- 過去の基本PF変更等を巡るGPIFの広報活動では、国民の皆様には「積立金の役割」と「長期分散投資の効用」が十分伝わっていない可能性

	メディアの反応例	広報活動の振り返り
2009年	名目運用利回り目標「4.1%」に注目	年金財政における積立金の役割（特に実質的な運用利回り＝スプレッド）の重要性が伝わらなかった
2014年	株式比率引き上げを巡る報道過熱	長期国際分散投資の意義が伝わらなかった

GPIFに関する報道件数は基本PF変更前後で約5倍に



大手5紙（日経、朝日、読売、毎日、産経）で「GPIF」が含まれる記事の件数  
出所：日経テレコン

過去の基本PF策定等に関する報道等を踏まえ、  
**「3つのメッセージ」（①積立金の役割②長期分散投資の効用③ESG投資の意義）が伝わる広報をさらに強化**

# 今年度の取組み：「3つのメッセージ」のさらなる訴求

## ① 実質的な運用利回り（スプレッド）を分かりやすく広報

「実質的な運用利回り」（スプレッド）は、年金財政における積立金の役割に対する理解を深めるために不可欠の概念だが、一般的でないため伝わりにくい

GPIFの運用利回り目標がなぜ「名目賃金上昇率 +  $\alpha$ 」なのか、HPで平易に説明するコンテンツを作成

### 経済変動が年金財政へ与える影響

- 賦課方式を基本とした公的年金は、人口構造の変化による影響を除くと、収入（財源）、支出（給付）ともに賃金水準の変化に応じて変動することとなる。この性質により、激しい経済変動に対しても一定の安定性を確保し、その時々賃金水準に応じた年金給付を可能としている。
- したがって、収入、支出の中で賃金上昇に連動しない部分が年金財政に大きな影響を与える。
  - <賃金上昇に連動しない部分>
    - ・運用収入のうち運用利回りと賃金上昇率の差 … 実質的な運用利回り（スプレッド）
    - ・既裁定年金の物価スライド … 賃金上昇率と物価上昇率の差（実質賃金上昇率）



- ① 保険料収入 … 賃金上昇に応じて増加
- ② 国庫負担 … 給付の増加（≒賃金上昇）に応じて増加
- ③ 積立金 … 運用収入に応じて増加
- ④ 年金給付 … 新規裁定年金の賃金スライドにより、おおむね賃金上昇に応じて増加  
→ 既裁定年金は物価スライドであるが、年金給付の長期的な動向は賃金上昇に応じて増加する。

3

具体的には・・・

- ・ 厚労省が作成した左のような資料を参考にしつつ、年金積立金に焦点を当て、多くのステークホルダー（特に国民の皆様）に伝わるよう再構成
- ・ さらに、2020年度から始まる予定の次期中期計画の広報に備え、HPの「基本ポートフォリオの考え方」など、関連ページを分かりやすく変更

出所 厚生労働省「第4回社会保障審議会年金部会  
年金財政における経済前提に関する専門委員会」資料2

# 今年度の取組み：「3つのメッセージ」のさらなる訴求

## ②次期基本PF策定等に向けた記者レク強化

- 年金制度に対する注目が改めて高まることが予想されるため、運用実績以外にGPIFを取り上げる機会の少ないメディアとの接点を強化。**基本的な個別レクや勉強会をきめ細かに実施**

## ③厚労省による年金広報強化の動きと連携

- 公的年金制度において年金積立金の運用やGPIFが果たす役割は一部にすぎない
- GPIFに対する国民の信頼感を高めるには、公的年金制度全体の信頼感向上が不可欠

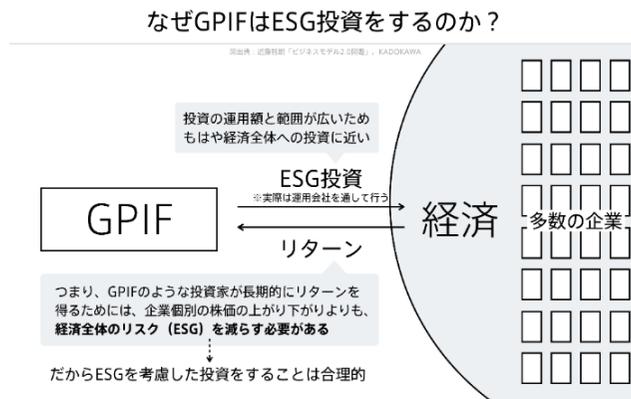


- 厚労省年金局は年金広報強化を目的に「年金広報検討会」を2019年2月に設置。GPIFからも審議役が構成員として参加
- まずは年金局が整備するウェブサイト「年金ポータル」とGPIFの公式HPを分かりやすくリンク

# 今年度の取組み：「3つのメッセージ」のさらなる訴求

## ④ 積立金の安定的な運用に資するESG活動の分かりやすい広報

- 年金積立金の安定的な運用に資するESG活動は長期的な取組み。活動継続のためには国民の皆様への理解が不可欠
- 「ESG活動報告」や役員講演等を通じ、運用業界や投資先企業における理解は進展
- 一方、国民の皆様への認知度は限定的（2019年2月の広報効果測定調査ではESG投資の認知率25%）。公式ツイッターでもESG活動に関する投稿は反応が薄い
- GPIFのESG活動について、国民の皆様へ「伝わる」広報コンテンツを作成



具体的には・・・

- 2018年発行のビジネス書「ビジネスモデル2.0 図鑑」(近藤哲朗著)では、GPIFのESG投資を「図解」
- 著者が2019年2月に自身のツイッターでこの図解をツイートしたところ、大きな反響
- 反応したのは社会課題の解決に関心のある10~30代とみられる。GPIF公式ツイッターのフォロワー(国際分散投資を実践する30~40代の個人投資家等)と異なる属性
- 欧米でもESG投資に関心が高いのは、社会課題解決への意識が高いとされるミレニアル世代

こうした層に届く**HPコンテンツ(紙芝居のような動画等)の制作を検討**

